取扱説明書 - 日本語

FUJITSU Software ServerView Suite

# ServerView Remote Management Frontend

ServerView Operations Manager

2009 年 6 月版

# 製品名称の表記

本書では、本文中の製品名称を、次のように略して表記します。

<table>
<tr><th>製品名称</th><th colspan="2">本文中の表記</th></tr>
<tr><td>Microsoft® Windows Server® 2008 Standard<br>Microsoft® Windows Server® 2008 Enterprise<br>Microsoft® Windows Server® 2008 Datacenter<br>Microsoft® Windows Server® 2008 Foundation<br>Microsoft® Windows® Small Business Server 2008 Standard<br>Microsoft® Windows® Small Business Server 2008 Premium</td><td>Windows Server 2008</td><td rowspan="6">Windows</td></tr>
<tr><td>Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Standard<br>Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Enterprise<br>Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Datacenter<br>Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Foundation<br>Microsoft® Windows® Web Server 2008 R2</td><td>Windows Server 2008 R2</td></tr>
<tr><td>Microsoft® Windows Server® 2003, Standard Edition<br>Microsoft® Windows Server® 2003, Enterprise Edition<br>Microsoft® Windows Server® 2003, Enterprise Edition for Itanium-based Systems<br>Microsoft® Windows® Small Business Server 2003</td><td>Windows Server 2003</td></tr>
<tr><td>Microsoft® Windows Server® 2003, Standard x64 Edition<br>Microsoft® Windows Server® 2003, Enterprise x64 Edition</td><td>Windows Server 2003 x64</td></tr>
<tr><td>Microsoft® Windows Server® 2003 R2 Standard Edition<br>Microsoft® Windows Server® 2003 R2 Enterprise Edition<br>Microsoft® Windows® Small Business Server 2003 R2<br>Microsoft® Windows® Storage Server 2003 R2, Standard Edition</td><td>Windows Server 2003 R2</td></tr>
<tr><td>Microsoft® Windows Server® 2003 R2 Standard x64 Edition<br>Microsoft® Windows Server® 2003 R2 Enterprise x64 Edition</td><td>Windows Server 2003 R2 x64 または Windows Server 2003 R2</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>製品名称</th><th colspan="3">本文中の表記</th></tr>
<tr><td>Red Hat Enterprise Linux 5</td><td>RHEL5</td><td rowspan="3">Red Hat Linux</td><td rowspan="5">Linux</td></tr>
<tr><td>Red Hat Enterprise Linux AS（v.4）</td><td rowspan="2">RHEL4</td></tr>
<tr><td>Red Hat Enterprise Linux ES（v.4）</td></tr>
<tr><td>SUSE Linux Enterprise Server 11</td><td>SuSE Linux SLES11<br>または SLES11</td><td rowspan="2">SuSE Linux</td></tr>
<tr><td>SUSE Linux Enterprise Server 10</td><td>SuSE Linux SLES10<br>または SLES10</td></tr>
<tr><td>VMware ESX 4</td><td colspan="2">ESX4</td><td rowspan="2">VMware</td></tr>
<tr><td>VMware ESX 3.5</td><td colspan="2">ESX3.5</td></tr>
</table>

# 著作権および商標



Microsoft、Windows、Windows Server、Hyper-V は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Linux は、Linus Torvalds 氏の米国およびその他の国における登録商標あるいは商標です。

Red Hat および Red Hat をベースとしたすべての商標とロゴは、米国およびその他の国における Red Hat, Inc. の商標または登録商標です。

BrightStor, ARCserve は、CA, Inc の登録商標です。

VMware、VMware ロゴ、VMware ESXi、VMware SMP および VMotion は VMware,Inc の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。

その他の各製品は、各社の著作物です。

# 目次

# 1　はじめに

ServerView Remote Management Frontend は、ServerView Operations Manager に統合されているサーバのリモート管理のための Web ベースの作業環境を提供します。ServerView Remote Management Frontend は、ServerView Operations Manager から起動し、ServerView Operations Manager と一緒に自動的にインストールされます。

本書では、ServerView Remote Management Frontend と ServerView Operations Manager を、それぞれ Remote Management Frontend と Operations Manager と呼びます。

リモートのワークステーションで表示するために必要なのは、標準的な Web ブラウザだけです。Operations Manager の「サーバリスト」画面に表示されたサーバごとに、別々のブラウザ画面で表示できます。その画面から、サーバのリモート管理用の様々な画面を表示できます。

Remote Management Frontend は、Web ベースのソリューションなので、Windows や Linux システムで構成したリモートのワークステーションにインストールできます。

i　iRMC/ iRMC S2 がインストールされている個々のサーバの場合、iRMC/ iRMC S2 の Web インタフェースで Remote Management Frontend の機能を使用できます（「iRMC - integrated Remote Management Controller」マニュアルと「iRMC S2 - integrated Remote Management Controller」マニュアルをご覧ください）。

# 1.1 概要

Remote Management Frontend で表示される画面の種類は、監視対象サーバとの通信を確立するために使用するハードウェア（iRMC、RSB など）や、リモート管理用に提供されるインタフェースによって異なります。

**Remote Management Frontend 画面 - ハードウェアによる違い**

Remote Management Frontend の画面表示と項目は、監視対象のサーバとの通信を確立するリモートハードウェアによって次のようになります。

– **iRMC** または **iRMC S2** が搭載されたサーバの場合、Telnet/SSH の Remote Manager アプリケーション、または Remote Management Frontend のコンソール領域に表示される監視対象サーバの電源管理とコンソールリダイレクション画面を使用できます。

– **RSB** または **RSB S2/ RSB S2 LP**（バージョン 6.4.57.29 時点のファームウェア）が搭載されたサーバの場合、通信が確立すると、Remote Management Frontend のコンソール領域で Telnet の Remote Manager アプリケーションを使用できます。

  **RSB** の場合のみ :
  Remote Manager を使用して、監視対象サーバのコンソールでの表示をリダイレクトできます。これにより、監視対象サーバの BIOS 設定や RemoteView/Diagnose システムツールにアクセスできます。

– **BMC**（ファームウェアのバージョンが 2.x 以降）が搭載されたサーバの場合、通信が確立すると、Remote Management Frontend のコンソール領域に表示される監視対象サーバの電源管理とコンソールリダイレクション画面を使用できます。

– マネジメントブレードが搭載されたブレードサーバの場合、通信が確立すると、Remote Management Frontend のコンソール領域に表示されるマネジメントブレードの Telnet Console Menu を使用できます。Console Menu を使用して、監視対象サーバブレードのコンソールでの表示をリダイレクトできます。これにより、管理対象のサーバブレードの BIOS 設定にアクセスできます。

**Remote Management Frontend のサーバリモート管理用インタフェース**

監視対象サーバへの Web ベースのアクセスに使用する Remote Management Frontend のインタフェースは、個々の監視対象サーバのリモート管理で使用するハードウェアによって次のように異なります。

- Telnet ベースのインタフェース（Remote Manager）
  通信を確立するインタフェースは、管理対象のサーバによって次のように異なります。
  - iRMC/ iRMC S2、または
  - RSB/ RSB S2/ RSB S2 LP (3HU)（ファームウェアのバージョンが 6.4.57.29 以降）
- マネジメントブレードの Telnet ベースのインタフェース（Console Menu）
- iRMC/ iRMC S2 の SSH ベースのインタフェース（Remote Manager）
- Kalypso BMC（BMC のファームウェアのバージョン 2.x 以降）の電源管理とコンソールリダイレクションのインタフェース（IPMI (1.5)-over-LAN-based）
- 次のハードウェアを使用した、電源管理（IPMI (2.0)-over-LAN-based）とコンソールリダイレクション（SOL）のインタフェース
  - iRMC/ iRMC S2、または
  - RX600 S2/S3 の BMC

## 1.2 本マニュアルの構成

本マニュアルは、次の話題に関する情報を記載しています。

– 第 1 章：前書き

  Remote Management Frontend の概要を説明します。

– 第 2 章：Remote Management Frontend の設定

  要件に応じた Remote Management Frontend の基本設定の方法を説明します。

– 第 3 章：Remote Management Frontend の起動

  Operations Manager のグラフィカルユーザインタフェースから Remote Management Frontend を起動する方法、必須の要件、および監視対象サーバで使用するリモート管理用ハードウェアごとの特別な要件を説明します。

– 第 4 章：Remote Management Frontend の使用方法

  最初に、Remote Management Frontend のユーザインタフェースの構成とコンポーネントを説明します。次に、Remote Management Frontend のユーザインタフェースで監視対象サーバとの通信を確立する方法について説明します。

– 第 5 章：セキュリティ

  Operations Manager とリモート管理用ハードウェアのパスワード保護の概要を説明します。

## 1.3 最終版からの変更

本版は Remote Management Frontend V4.90 に対して有効で、次のオンラインマニュアルの最新版です。
「Remote Management Frontend V4.80」2009 年 4 月版

# 1.4 本書の表記

本マニュアルでは次の表記が使用されます。

| | |
|---|---|
| ⚠ **注意** | この記号は、人的傷害、データ消失、機材破損の危険性を示しています。 |
| i | この記号は、重要な情報やヒントを強調しています。 |
| ► | この記号は、操作を続行するために行わなければならない手順を示しています。 |
| *斜体* | コマンド、ファイル名、およびパス名は *斜体* で表記されています。 |
| 固定フォント | システム出力は、固定フォントで表記されています。 |
| **太字の固定フォント** | キーボードから入力する必要のあるコマンドは、太字の固定フォントで表記されています。 |
| <abc> | 山カッコは実数値に置き換えられる変数を囲っています。 |
| [Key symbols] | キーは、キーボード上の該当するキーを表しています。また大文字を入力する必要がある場合は、シフトキーも表示されています。<br>例 : 大文字 A の場合、[SHIFT] - [A]<br>2 つのキーを同時に押す必要がある場合は、それぞれのキー記号の間にハイフンが表示されています。 |

表 1: 本書の表記

マニュアル内の本文や項を参照する場合は、章や項の見出しを参照先として示し、その章や項が始まるページを記載しています。

### 画面出力

画面出力は、使用するシステムによってある程度異なります。そのため、お使いのシステムで表示される出力は、本マニュアルの記載と若干異なる可能性があります。また、利用できるメニュー項目もシステムによって異なる場合があります。

# 2 Remote Management Frontend の設定

Remote Management Frontend の次の設定は、設定ファイルを使用して行います。

– BMC/ iRMC/ iRMC S2 を介した電源管理とコンソールリダイレクションのマルチセッションサポート、SSH アクセス（iRMC/ iRMC S2）のボタンの表示、および Operations Manager の電源管理とコンソールリダイレクション（iRMC/ iRMC S2）。

– コンソールリダイレクションのセッションを停止した後の、テキストコンソールリダイレクションのコンソール領域の削除・非削除。

## 2.1 マルチセッションサポート、SSH アクセス、およびコンソールリダイレクションの設定

i ここで説明する Remote Management Frontend を設定するには、次のバージョンの Operations Manager と Remote Management Frontend が存在している必要があります。

– Operations Manager V4.90 以降

– Remote Management Frontend V4.90 以降

Remote Management Frontend をインストールする際に、次のディレクトリに *Features* フォルダが自動的に作成されます。
*<SV-installation-directory>¥ServerView¥ServerView Services¥wwwroot¥RemoteView*
このフォルダで、Remote Management Frontend の次の機能を利用するかどうかを設定します。

– BMC/ iRMC/ iRMC S2 のマルチセッションサポート

iRMC/ iRMC S2 または BMC が搭載されている監視対象サーバでは、iRMC/ iRMC S2 または BMC を介した電源管理とコンソールリダイレクションのブラウザ画面を表示できます。

デフォルト値 :BMC/ iRMC/ iRMC S2 のマルチセッションサポートが有効。

i Remote Management Frontend で利用可能になっている他のインタフェースでは、マルチセッションサポートは常に有効です。

– iRMC/ iRMC S2 への SSH アクセス

iRMC/ iRMC S2 が搭載されたサーバの「ServerView [ サーバ名 ]」画面に、iRMC/ iRMC S2 への SSH アクセス用の「iRMC SSH」ボタンが表示されます（24 ページの図 5 をご覧ください）。

デフォルト値 :「iRMC SSH」ボタンが表示されます。

– iRMC/ iRMC S2 が搭載されたサーバのコンソールリダイレクション（SOL）と電源管理

「ServerView [ サーバ名 ]」画面に、「iRMC 電源制御」ボタンが表示されます（24 ページの図 5 をご覧ください）。

デフォルト値 : コンソールリダイレクション（SOL）と電源管理用の「iRMC 電源制御」ボタンは表示されません。

### フォルダ「Features」での設定

*Features* フォルダでテキストファイルを作成したり削除したりして、マルチセッションサポートやボタンの表示などの機能をそれぞれ有効にしたり無効にしたりできます。テキストファイルの内容は関係なく、内容が空でもかまいません。

テキストファイルには、次の固定名を使用する必要があります。

MultiSessionBMC

BMC/ iRMC/ iRMC S2 の電源管理とコンソールリダイレクションのマルチセッションサポートが有効になります。

SSHiRMC

iRMC/ iRMC S2 のあるサーバで、iRMC/ iRMC への SSH アクセス用ボタンが表示されます。

SOLiRMC

iRMC /iRMC S2 が搭載されたサーバのコンソールリダイレクション（SOL）と電源管理用ボタンが表示されます。

次のことに注意してください。

– ファイル名は大文字小文字を区別しません。

– ファイル名に接尾辞（*.txt* など）を付けないでください。

## 2.2 テキストコンソールリダイレクションのコンソール領域のセッション終了後の削除・非削除

デフォルトでは、コンソールリダイレクションを実行してセッションが終了すると、コンソール領域の内容は削除されます。セッション終了後にコンソール領域の内容を保持する必要がある場合は、次のように設定する必要があります。

► サーバの種類に応じて、次のファイルを開きます。

– Kalypso BMC を使用しているサーバの場合 :

*<SV-installation-directory>¥ ServerView¥ServerView Services¥ wwwroot¥ RemoteView¥ appbmc.conf*

– TX600/RX600 S2 タイプのサーバおよび RMC S1/ iRMC S2 が搭載されたサーバの場合 :

*<SV-installation-directory>¥ ServerView¥ServerView Services¥ wwwroot¥ RemoteView¥ appbmcl.conf*

► オプション *Terminal.clearOnOffline* を「false」に設定します。

# 3 Remote Management Frontend の起動

この章では次の内容を説明します。

– Operations Manager 経由で Remote Management Frontend を起動するために必要な要件。

– Operations Manager 経由で Remote Management Frontend を起動する方法、および管理対象のサーバのステータスとリモート管理ハードウェアへの依存関係を確認するために必要な項目。

Remote Management Frontend は、Operations Manager のグラフィカルユーザインタフェース経由で起動します。

i Remote Management Frontend は、スタートメニューには表示されません。

i iRMC/iRMC S2 がインストールされているサーバの場合、iRMC/iRMC S2 の Web インタフェースにあるリンク経由で、サーバの Remote Management Frontend の機能を呼び出すことができます。詳しくは、「iRMC - integrated Remote Management Controller」マニュアル、「iRMC S2 - integrated Remote Management Controller」マニュアルをご覧ください。

# 3.1 要件

Remote Management Frontend を起動し、監視対象サーバとの通信を確立する前に、監視対象サーバとリモートワークステーションで、次の要件を満たす必要があります。

## 3.1.1 監視対象サーバの要件

Remote Management Frontend が、iRMC/iRMC S2、RSB/ RSB S2/ RSB S2 LP、BMC、またはマネジメントブレードのどれを経由して監視対象サーバにアクセスするかにより、監視対象サーバで次の要件を満たす必要があります。

– **iRMC/ iRMC S2**

iRMC/ iRMC S2 の LAN インタフェースとテキストコンソールリダイレクション（Serial Over LAN 経由）を設定する必要があります。

Serial Over LAN（SOL）経由でのテキストコンソールリダイレクションは、オペレーティングシステムと BIOS の少なくとも一方が、テキストコンソールリダイレクション用にシリアルポート 1（COM1）を使用していることを前提にしています。

詳しくは、「iRMC - integrated Remote Management Controller」マニュアル、「iRMC S2 - integrated Remote Management Controller」マニュアルをご覧ください。

– **RSB S2/ RSB S2 LP (3HU)**

RSB S2/ RSB S2 LP/ RSB S2 LP (3HU) 経由での Remote Management Frontend へのアクセスは、RSB S2/ RSB S2 LP/ RSB S2 LP (3HU) がファームウェアのバージョン 29 以降で動作している場合のみ可能です。

監視対象サーバの RSB S2/ RSB S2 LP (3HU) の管理ポートの値を、デフォルト値の 3172 に設定する必要があります。

i 管理ポートの値は Operations Manager には通知されないので、Remote Management Frontend はデフォルト値で動作します。

Remote Management Frontend の起動時に、自動で通信は開始されないので、Remote Management Frontend の起動後に管理ポートの値（非デフォルト値の場合）を修正できます。

– **BMC**

BMC を、IPMI-over-LAN とコンソールリダイレクション用に設定する必要があります。

– **マネジメントブレード**

監視対象サーバのマネジメントブレードの管理ポートは、デフォルト値の 3172 に設定する必要があります。

> **i** 管理ポートの値は Operations Manager には通知されないので、Remote Management Frontend はデフォルト値で動作します。
>
> Remote Management Frontend の起動時に、自動で通信は開始されないので、Remote Management Frontend の起動後に管理ポートの値（非デフォルト値の場合）を修正できます。

## 3.1.2 リモートワークステーションの要件

Web ブラウザで次を有効にする必要があります。

– Java
– JavaScript

## 3.2 Operations Manager 経由で Remote Management Frontend を起動する

Remote Management Frontend は、Operations Manager のグラフィカルユーザインタフェース経由で起動します。

次の手順を実行します。

► Operations Manager を起動します。
（「ServerView Operations Manager」マニュアルをご覧ください）。

Operations Manager のメインページが表示されます。

図 1: ServerView Operations Manager: スタートページ

► Operations Manager のメインページで、エントリ「サーバリスト」の下のリンク「サーバリスト」をクリックします。
「サーバリスト」画面が表示されます（図 2 をご覧ください）。

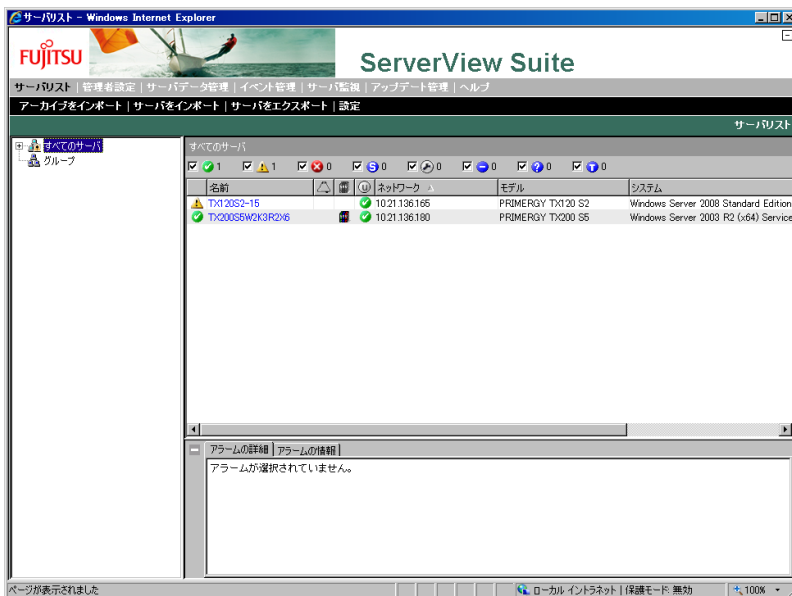



図 2: Operations Manager: 「サーバリスト」設定画面

Remote Management Frontend へのアクセス方法は、サーバにある Remote Management のハードウェアによって、次のように異なります。

– iRMC/ iRMC S2 が搭載されたサーバ :

  Operations Manager 画面経由でアクセスします。
  詳しくは、22 ページの「iRMC/ iRMC S2 経由での Remote Management Frontend の起動」の項をご覧ください。

– RSB/ RSB S2/ RSB S2 LP (3HU) または BMC が搭載されたサーバ :

  Operations Manager 画面経由でアクセスします。
  詳しくは、27 ページの「RSB/ RSB S2/ RSB S2 LP (3HU) または BMC 経由で Remote Management Frontend を起動する」の項をご覧ください。

– マネジメントブレードが搭載されたブレードサーバ（ ）:
  「ブレードサーバビュー」画面経由でアクセスします。
  詳しくは、32 ページの「マネジメントブレード経由で Remote Management Frontend を起動する」の項をご覧ください。

## 3.2.1 iRMC/ iRMC S2 経由での Remote Management Frontend の起動

次の手順を実行します。

▶ 「サーバリスト」画面（21 ページの図 2）で、Remote Management Frontend を使用して管理するサーバ名をクリックします。

- サーバを Operations Manager 経由で管理できる場合（ などのステータスアイコンが表示されている場合）は、「ServerView [ サーバ名 ]」画面が表示されます（23 ページの " 管理可能サーバに対する Remote Management Frontend の起動 " をご覧ください）。
- サーバを Operations Manager 経由で管理できないが、セカンダリチャネル経由でアクセスできる場合（BMC モード、ステータスアイコン が表示されている場合）は、リモートマネージメントビューが表示されます（26 ページの " サーバの Remote Management Frontend を BMC モードで起動する " をご覧ください）。

**例：**

図 3: Operations Manager: 「サーバリスト」画面（サーバ管理の可不可）

### 管理可能サーバに対する Remote Management Frontend の起動

Operations Manager 経由でサーバを管理できる場合は、「サーバリスト」画面のサーバ名をクリックすると、「ServerView [ サーバ名 ]」画面が表示されます（21 ページの図 2 をご覧ください）。

図 4: ServerView Operations Manager:「ServerView [ サーバ名 ]」画面

► 「ステータス表示 / 設定」で「メンテナンス」→「リモートマネージメント」をクリックします。

リモートマネージメントビューが表示されます（24 ページの図 5 をご覧ください）。

図 5: Operations Manager: リモートマネージメントビュー（サーバ管理が可能）

「表示データ :」ボックスでオンラインデータ（「オンライン」）(1) を設定した場合は、「リモート管理」ボタン (2) のみが表示されます。

アーカイブデータ（「アーカイブ」）を表示するように設定した場合は、これらのボタンは表示されません。

図 5 では、すべてのボタンが表示されています（最大設定）。デフォルトでは、「iRMC 電源制御」ボタンは表示されません。ボタン設定について詳しくは、13 ページの「マルチセッションサポート、SSH アクセス、およびコンソールリダイレクションの設定」の項をご覧ください。

表示されたボタンのうち「iRMC Web」ボタン以外のどれかをクリックすると、Remote Management Frontend を起動できます。対応する Remote Management Frontend のユーザインタフェース（「リモートマネージメント」画面）が表示されます。「リモートマネージメント」画面の構成と各項目については、35 ページの「Remote Management Frontend のユーザインタフェース」の項をご覧ください。

iRMC Telnet

「iRMC Telnet」ボタンをクリックすると、Remote Manager の「リモートマネージメント」画面 が表示され（36 ページをご覧ください）、監視対象サーバとの iRMC/ iRMC S2 経由の非セキュア Telnet 通信を確立できます（44 ページをご覧ください）。

iRMC SSH

「iRMC SSH」ボタンをクリックすると、Remote Manager の「リモートマネージメント」画面が表示され（36 ページをご覧ください）、監視対象サーバとの iRMC/iRMC S2 経由のセキュア SSH 通信を確立できます（44 ページをご覧ください）。

iRMC 電源制御

「iRMC 電源制御」ボタンをクリックすると、監視対象サーバのテキストコンソールリダイレクションと電源管理用の「リモートマネージメント」画面が表示されます（40 ページをご覧ください）。

iRMC Web

「iRMC Web」ボタンをクリックすると、iRMC/ iRMC S2 の Web インタフェースが起動します（「iRMC - integrated Remote Management Controller」マニュアル、および「iRMCS 2 - integrated Remote Management Controller」マニュアルをご覧ください）。

### サーバの Remote Management Frontend を BMC モードで起動する

Operations Manager 経由でサーバを管理できない場合は、「サーバリスト」画面のサーバ名をクリックすると（21 ページの図 2 をご覧ください）、次のリモートマネージメントビューが表示されます。

図 6: Operations Manager: リモートマネージメントビュー（サーバ管理が不可能）

i 図 6 については、24 ページの図 5 の説明をご覧ください。

## 3.2.2 RSB/ RSB S2/ RSB S2 LP (3HU) または BMC 経由で Remote Management Frontend を起動する

次の手順を実行します。

► 「サーバリスト」画面（21 ページの図 2）で、Remote Management Frontend を使用して管理するサーバ名をクリックします。

– サーバを Operations Manager 経由で管理できる（ などのステータスアイコンが表示される）場合 は、「ServerView [ サーバ名 ]」画面が表示されます（28 ページの " 管理可能サーバに対する Remote Management Frontend の起動 " をご覧ください）。

– サーバを Operations Manager 経由で管理できないが、セカンダリチャネル経由でアクセスできる（RSB モードまたは BMC モードで、ステータスアイコン が表示される）場合 は、リモートマネージメントビューが表示されます（31 ページの " サーバ用 Remote Management Frontend を RSB モードまたは BMC モードで起動する " をご覧ください）。

**例**：

図 7: Operations Manager: 「サーバリスト」画面（サーバ管理の可 / 不可）

## 管理可能サーバに対する Remote Management Frontend の起動

Operations Manager 経由でサーバを管理できる場合は、「サーバリスト」画面のサーバ名をクリックすると、「ServerView [ サーバ名 ]」画面が表示されます（21 ページの図 2 をご覧ください）。

図 8: Operations Manager:ServerView [ サーバ名 ] 画面

► 「ステータス表示 / 設定」で「メンテナンス」→「リモートマネージメント」をクリックします。

リモートマネージメントビューが表示されます（29 ページの図 9 をご覧ください）。

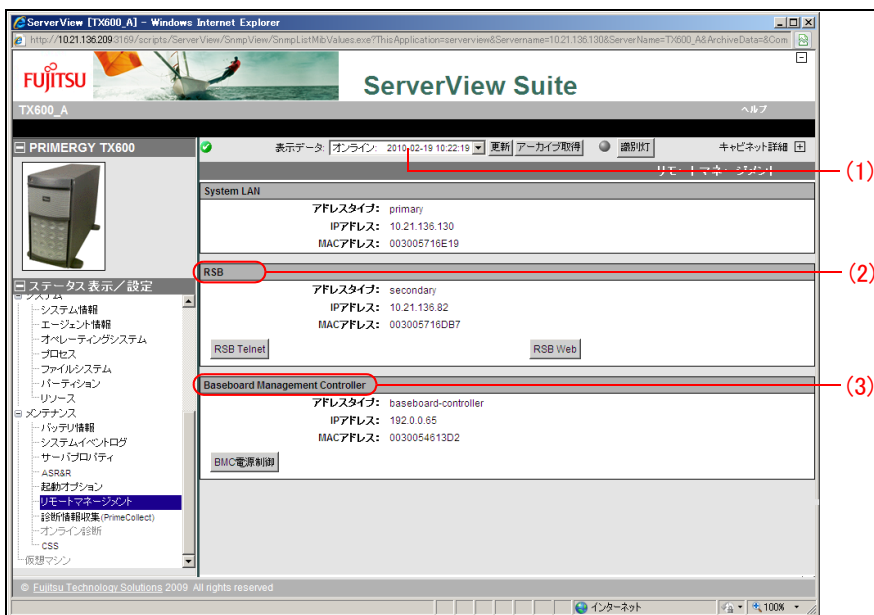



図 9: Operations Manager: リモートマネージメントビュー（サーバ管理が可能）

「表示データ :」ボックスで現在のデータ（「オンライン」）（1）を設定した場合は、「リモート管理」ボタンだけが表示されます。

アーカイブデータ（「アーカイブ」）を表示するように設定した場合は、ボタンは表示されません。

29 ページの図 9 は、BMC と RSB S2 LP の両方が搭載されたサーバのリモートマネージメントビューです。

RSB/RSB S2/RSB S2 LP (3HU) が搭載されているが BMC は搭載されていないサーバの場合は、「RSB Telnet」ボタンと「RSB Web」ボタンだけが利用できます。（2）

BMC が搭載されているが RSB/RSB S2/RSB S2 LP (3HU) は搭載されていないサーバの場合は、「BMC 電源制御」ボタンだけが利用できます。（3）

表示されたボタンのうち「RSB Web」ボタン以外のどれかをクリックすると、Remote Management Frontend を起動できます。対応する Remote Management Frontend のユーザインタフェース（「リモートマネージメント」画面）が表示されます。「リモートマネージメント」画面の構成と各項目については、35 ページの「Remote Management Frontend のユーザインタフェース」の項をご覧ください。

RSB Telnet

「RSB Telnet」ボタンをクリックすると、Remote Manager の「リモートマネージメント」画面が表示され（36 ページをご覧ください）、監視対象サーバとの RSB/ RSB S2/ RSB S2 LP (3HU) 経由の非セキュア Telnet 通信を確立できます（44 ページをご覧ください）。

RSB Web

「RSB Web」ボタンをクリックすると、RSB/ RSB S2/ RSB S2 LP (3HU) の Web インタフェースが起動します。

BMC 電源制御

「BMC 電源制御」ボタンをクリックすると、テキストコンソールリダイレクションと電源管理用の「リモートマネージメント」画面が表示されます（40 ページをご覧ください）。

### サーバ用 Remote Management Frontend を RSB モードまたは BMC モードで起動する

Operations Manager 経由でサーバを管理できない場合は、「サーバリスト」画面のサーバ名をクリックすると（21 ページの図 2 をご覧ください）、次のリモートマネージメントビューが表示されます。

図 10: Operations Manager: リモートマネージメントビュー（サーバ管理が不可能）

図 10 については、29 ページの図 9 の説明をご覧ください。

### 3.2.3 マネジメントブレード経由で Remote Management Frontend を起動する

次の手順を実行します。

► 「サーバリスト」画面で（21 ページの図 2 をご覧ください）、Remote Management Frontend で管理するブレードサーバ名（ ）をクリックします。

「ブレードサーバビュー [ サーバ名 ]」画面が表示されます。

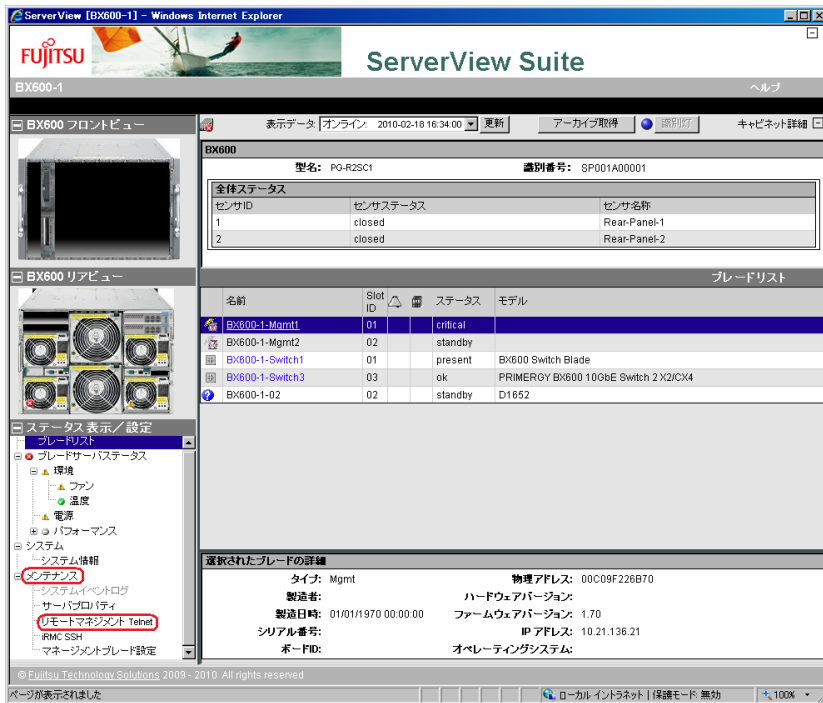



図 11: Operations Manager:「ブレードサーバビュー [ サーバ名 ]」画面

► 「ステータス表示」で「メンテナンス」→「リモートマネジメント Telnet」を選択します。

Remote Management Frontend が起動します。

「リモートマネジメント Telnet」リンクは、「表示データ :」ボックスで、オンラインデータ（「オンライン」）（1）を表示するように設定した場合のみ有効になります。アーカイブデータ（「アーカイブ」）を表示するように設定した場合は、「リモートマネジメント Telnet」リンクは有効になりません。

ファームウェアのバージョンが S3 以前のマネジメントブレードへの Telnet/SSL 接続は、Remote Management Frontend が Windows システムにインストールされていて、かつ Web ブラウザが Windows システムで動作している場合のみ可能です。Remote Management Frontend と Web ブラウザは、異なった Windows システムで動作していてもかまいません。

この制約は Management Blades S3 にはありません。

Console Menu の「リモートマネジメント」画面が表示されます（36 ページをご覧ください）。この画面で、ブレードサーバへのマネジメントブレード経由の非セキュア Telnet 接続を開始できます。詳しくは、「BX Blade Server Systems - RemoteView Management Blade」マニュアルをご覧ください。

# 4 Remote Management Frontend の使用方法

この章では次の内容を説明します。

– Remote Management Frontend のユーザインタフェースの構成と、Operations Manager 経由で Remote Management Frontend を起動した際に表示される項目。

– Remote Management Frontend インタフェース経由で監視対象サーバとの通信を確立する手順。

## 4.1 Remote Management Frontend のユーザインタフェース

Remote Management Frontend のユーザインタフェース（「リモートマネージメント」画面）は Web ブラウザ画面に表示され、メニューバーはありません。

「リモートマネージメント」画面には次の 2 種類があります。

– Remote Manager および Console Menu 用の画面

  Remote Manager は、iRMC/ iRMC S2 または RSB/ RSB S2/ RSB S2 LP (3HU) が搭載されたサーバのリモート管理用英数字ユーザインタフェースです。

  Console Menu は、マネジメントブレードが搭載されたブレードサーバのリモート管理用英数字ユーザインタフェースです。

– iRMC/ iRMC S2 または BMC 経由での、監視対象サーバのテキストコンソールリダイレクションおよび電源管理用の画面

### 4.1.1 Remote Manager および Console Menu 用のリモートマネージメント画面

ここでは、Remote Manager（iRMC/ iRMC S2, RSB/ RSB S2/ RSB S2 LP (3HU)）および Console Menu（マネジメントブレード）用の「リモートマネージメント」画面について説明します。

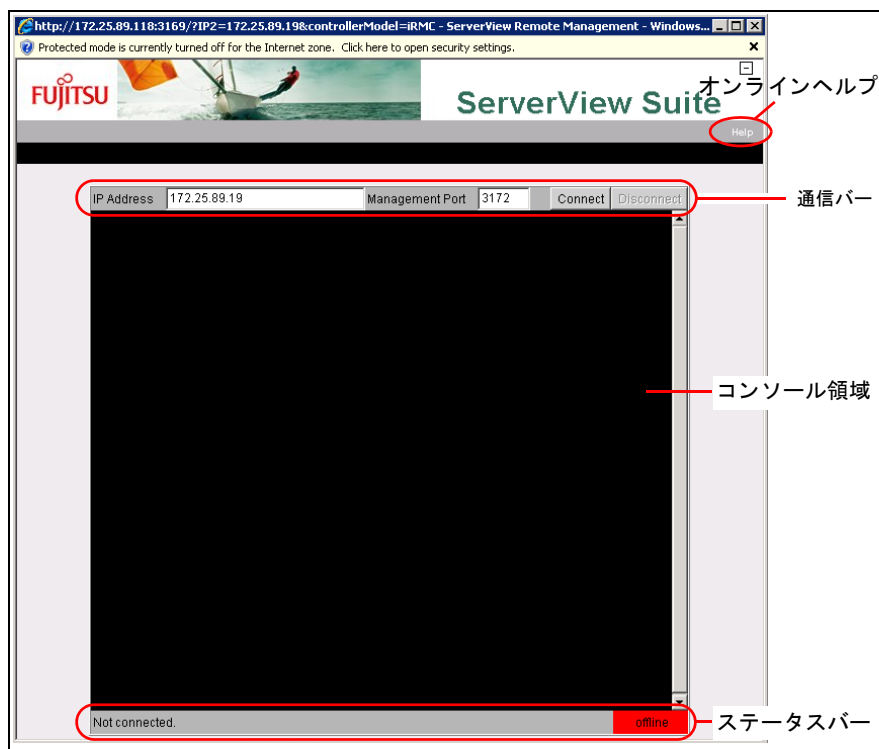
Telnet および SSH ベースの Remote Manager と Console Menu の「リモートマネージメント」画面の構成は同一です。表示されるポート番号のみが次のように異なります。
3172（Telnet ポート）、22（iRMC/ iRMC S2 との SSH 通信ポート）。



図 12: Remote Manager および Console Menu 用の「リモートマネージメント」画面

### オンラインヘルプ

► Remote Management Frontend のヘルプ機能を呼び出すには、「HELP」をクリックします。

ヘルプ機能は、次の情報を提供します。

概要
: Remote Management Frontend の概要

リモート管理
: Telnet/SSH ベースのリモート管理に関する情報

バージョン情報
: Remote Management Frontend のバージョン情報

### 通信バー

Remote Management Frontend の通信バーには、次の項目が表示されます。

| | |
|---|---|
| 「IP Address」 | 次のいずれかの IP アドレスが表示されます。<br>– iRMC/ iRMC S2<br>– RSB/ RSB S2/ RSB S2 LP (3HU)<br>– マネジメントブレード<br>Remote Management Frontend は Operations Manager から IP アドレスを継承します。IP アドレスを上書きすることもできます。入力できるのは最大 20 文字までです。 |
| 「Management Port」 | 次のいずれかのポート番号が表示されます。<br>– iRMC/ iRMC S2<br>– RSB/ RSB S2/ RSB S2 LP (3HU)<br>– マネジメントブレード<br>Remote Management Frontend では、Operations Manager からポート番号を継承できません。<br>デフォルト設定は、Telnet 通信用は 3172、SSH 通信用は 22 です。<br>ポート番号を上書きできます。入力できるのは最大 4 文字までです。 |

表 2: 「リモートマネージメント」画面（Remote Manager）- 通信バー

| 「Connect」 | このボタンをクリックすると、iRMC/ iRMC S2、RSB/ RSB S2/ RSB S2 LP (3HU)、またはマネジメントブレードとの通信を確立します（44 ページをご覧ください）。 |
|---|---|
| 「Disconnect」 | このボタンをクリックすると、iRMC/ iRMC S2、RSB/ RSB S2/ RSB S2 LP (3HU)、またはマネジメントブレードとの通信を切断します。<br>i 「Connect」ボタンと「Disconnect」ボタンを使用して、画面を閉じなくとも、監視対象サーバとの通信を切断・再開できます。 |

表 2: 「リモートマネージメント」画面（Remote Manager）- 通信バー

**コンソール領域**

iRMC/ iRMC S2、RSB/ RSB S2/ RSB S2 LP (3HU)、またはマネジメントブレードとの通信が確立されると 、コンソール領域に以下が表示されます（通信の確立については、44 ページをご覧ください）。

– iRMC/ iRMC S2 の場合 : Remote Manager（Telnet / SSH）
（「iRMC - integrated Remote Management Controller」マニュアル、および「iRMC S2 - integrated Remote Management Controller」マニュアルをご覧ください。）

– RSB/ RSB S2/ RSB S2 LP (3HU) の場合 : Remote Manager（Telnet）

– マネジメントブレードの場合 : Console Menu

### ステータスバー

Remote Management Frontend のステータスバーには、次の項目が表示されます。

| | |
|---|---|
| 「Connected to <IP アドレス > < 管理ポート >」 | 左端には、iRMC/ iRMC S2、RSB/ RSB S2/ RSB S2 LP (3HU)、またはマネジメントブレードとの通信状態が、通信対象の IP アドレス、ポート番号と共に表示されます。 |
| 「< 通信状態 >」 | 右端には、通信状態が表示されます。<br>– 「offline」（背景は赤）<br>– 「online」（背景は緑）<br>– 「online SSL」（背景は緑）<br>SSL Telnet 通信が行われていることを表します。<br>– 「online SSH」（背景は緑）<br>SSL 通信が行われていることを表します。 |

表 3: RemoteView Frontend 画面（Remote Manager）- ステータスバー

## 4.1.2 テキストコンソールリダイレクションおよび電源管理用の Remote Management 画面

iRMC/ iRMC S2 または BMC 経由での、テキストコンソールリダイレクションと電源管理用の「Remote Management」画面の構成要素は、次のとおりです。

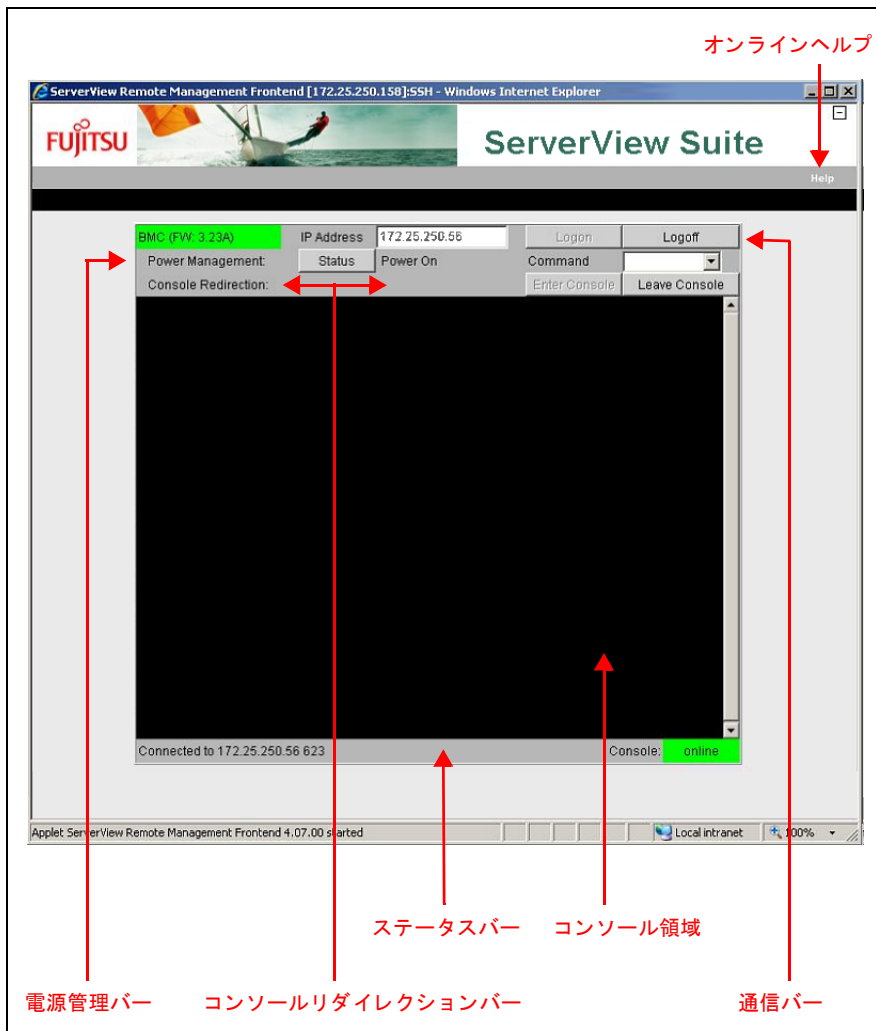



図 13: 電源管理とテキストコンソールリダイレクション用画面

### オンラインヘルプ

▶ Remote Management Frontend のヘルプ機能を呼び出すには、「HELP」をクリックします。

ヘルプ機能は、次の情報を提供します。

概要
: Remote Management Frontend の概要

リモート管理
: Telnet/SSH ベースのリモート管理に関する情報

バージョン情報
: Remote Management Frontend のバージョン情報

### 通信バー

Remote Management Frontend の通信バーには、次の項目が表示されます。

| | |
|---|---|
| 「BMC（FW:< バージョン >)」 | iRMC/ iRMC S2/ BMC との通信状態を表示します。<br>通信状態は背景色で表示されます。<br>灰色 :<br>iRMC/ iRMC S2/ BMC との通信は行われていません。<br>緑 :<br>iRMC/ iRMC S2/ BMC との通信が行われています。<br>通信が問題なく開始した場合は、通信中の iRMC/ iRMC S2/BMC のファームウェアのバージョンも表示されます。 |
| 「IP Address」 | iRMC/ iRMC S2/BMC の IP アドレスです。<br>Remote Management Frontend は Operations Manager から IP アドレスを継承します。通信が確立すると、このボックスは無効になります。 |
| 「Logon」 | このボタンをクリックすると、iRMC/ iRMC S2/BMC との通信が確立されます（51 ページをご覧ください）。 |

表 4: 「リモートマネージメント」画面 - 通信バー

| 「Logoff」 | このボタンをクリックすると、iRMC/ iRMC S2/BMC との通信を切断します。<br>i 「Logon」ボタンと「Logoff」ボタンを使用して、画面を閉じなくとも、監視対象サーバとの通信を切断・再開できます。 |
|---|---|

表 4: 「リモートマネージメント」画面 - 通信バー

### コンソール領域

コンソール領域には、リダイレクトされたコンソールが表示されます。コンソール領域では、有効な **E**mergency **M**anagement **S**ervices（EMS）がインストールされている Windows システムを起動している場合は、SAC コマンドを入力することもできます。

### コンソールリダイレクションバー

コンソールリダイレクションバーの「Enter Console」ボタンや「Leave Console」ボタンを使用して、コンソールリダイレクションのセッションを開始または終了します。

### ステータスバー

Remote Management Frontend のステータスバーには、次の項目が表示されます。

| 「Connected / Not connected」 | 左端の文字列は、通信が行われているかどうかを表します。 |
|---|---|
| 「< 通信状態 >」 | 右端の文字列は、コンソールリダイレクションの状態を表します。<br>– 「offline」（背景は赤）<br>– 「online」（背景は緑） |

表 5: RemoteView Frontend 画面 - ステータスバー

### 電源管理バー

電源管理バーは、監視対象サーバの電源状態に関する情報を提供します。「Status」ボタンをクリックすると、表示を更新できます。

「Command」ドロップダウンリストから、監視対象サーバの電源管理に関する次の IPMI コマンドを選択して実行します。

| IPMI コマンド | 説明 |
|---|---|
| 「Power On」 | サーバの電源をオンにします。 |
| 「Power Off」 | サーバの電源をオフにします。 |
| 「Reset」 | オペレーティングシステムの状態に関係なく、サーバを再起動します。（コールドスタート） |
| 「Power Cycle」 | サーバの電源を完全にオフにして、約 5 秒後に再度電源をオンにします。 |
| 「Shutdown」 | OS のシャットダウンと電源 Off を行います。 |

i アクティブなコンソールリダイレクションのセッションがない場合でも、「Command」ドロップダウンリストを使用して監視対象サーバの電源管理を開始することができます。

# 4.2 監視対象サーバとの通信を確立する

Remote Manager の「リモートマネージメント」画面、およびコンソールリダイレクションと電源管理の「リモートマネージメント」画面の両方で、監視対象サーバとの通信を確立する方法を説明します。

## 4.2.1 iRMC/ iRMC S2, RSB S2/ RSB S2 LP (3 HU) との Telnet/SSH（Remote Manager）通信を確立する

i Remote Management Frontend では、iRMC/ iRMC S2, RSB/ RSB S2/ RSB S2 LP (3HU) やマネジメントブレードの IP アドレスを継承します。

iRMC/ iRMC S2 用の Remote Manager の使用方法については、「iRMC - integrated Remote Management Controller」マニュアル、「iRMC S2 - integrated Remote Management Controller」マニュアルをご覧ください。

**iRMC/ iRMC S2 が搭載されている監視対象サーバの要件**

iRMC/ iRMC S2 に対して、Telnet 経由のアクセスを有効にする必要があります（「iRMC - integrated Remote Management Controller」マニュアル、「iRMC S2 - integrated Remote Management Controller」マニュアルをご覧ください）。

i Telnet プロトコルを使用したアクセスはパスワードをプレーンテキストで送信するので、デフォルトではセキュリティ上の理由で無効になっています。

i iRMC/ iRMC S2 を経由する通信の場合、Telnet/SSH の最大同時セッション数は以下のようになります。

– Telnet: 最大 4
– SSH: 最大 2
– Telnet と SSH の合計 : 最大 4

**RSB S2 /RSB S2 LP (3HU) が搭載された監視対象サーバの要件**

– RSB S2/ RSB S2 LP (3HU) のバージョンが 6.4.57.29 以降である必要があります。

– Telnet 経由のアクセスを、RSB S2/ RSB S2 LP (3HU) で有効にする必要があります。

i RSB S2/ RSB S2 LP (3HU) に設定されている Telnet のポート番号の値は、Operations Manager には通知されません。このため、Remote Management Frontend はデフォルトのポート番号で起動します。
ポート番号が非デフォルト値の場合は、Remote Management Frontend の起動後に管理ポート番号を修正してから、通信を開始してください。

i RSB S2/ RSB S2 LP (3HU)（ファームウェアのバージョンは 7.0 以降）を経由する通信の場合、Telnet の最大同時セッション数は 4 となります。

### Telnet/SSH 通信の確立と Remote Manager へのログイン

i 次の例で、管理対象サーバの iRMC/ iRMC S2 との Telnet/SSH 通信の確立について説明しています。RSB/ RSB S2/ RSB S2 LP (3HU) との Telnet 通信の場合も、この例とほぼ同様の手順となります。

次の手順を実行します。

► Operations Manager の「リモートマネジメント」ビューで、「iRMC Telnet」ボタン、または「iRMC SSH」ボタンをクリックします。

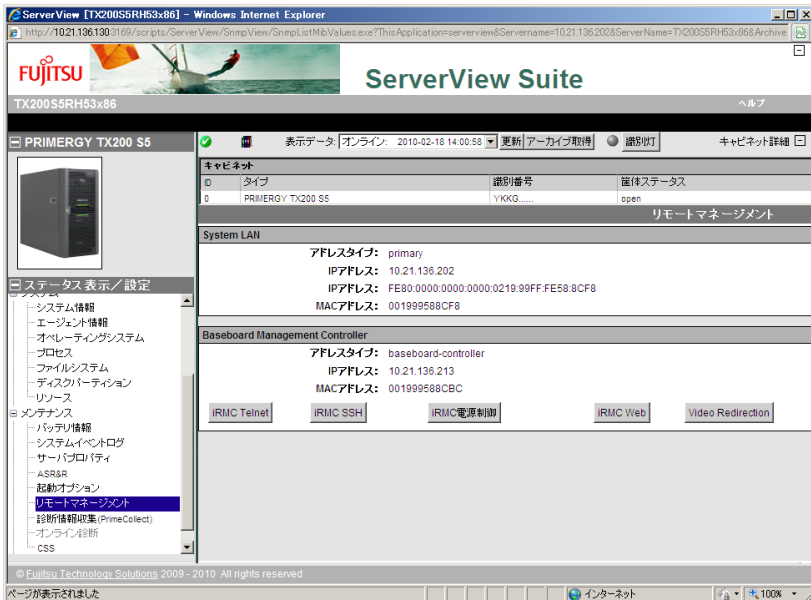



図 14: Operations Manager: リモートマネジメントビュー - Remote Manager の起動

Telnet/SSH 通信用の Java アプレットが起動し、「リモートマネージメント」画面が表示されます（ここでは SSH 接続を例にして説明します。47 ページの図 15 をご覧ください）。

i SSH 通信用の画面と Telnet 通信用の画面の違いが接続情報のみの場合は、SSH 通信の画面で説明します。

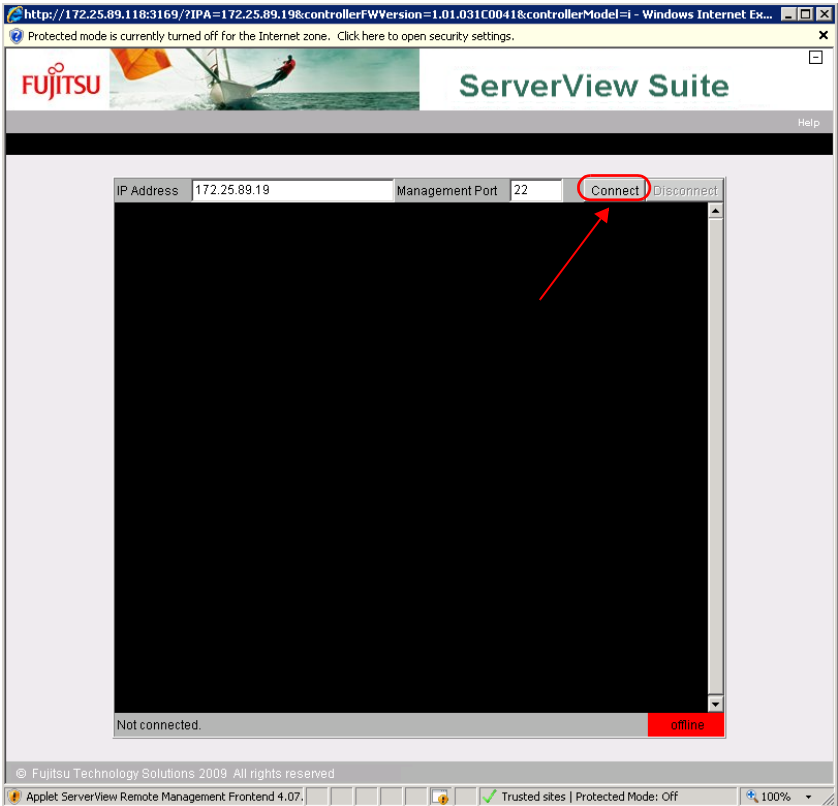



図 15: iRMC/ iRMC S2 経由での SSH 通信の開始

► 通信バーで「Connect」をクリックします。

i 通信の試みが失敗した場合、管理対象マシンの管理ポート番号が 3172（Telnet 用）または 22（SSH 用）であることが原因である可能性があります。

管理ポート番号は Operations Manager には通知されないので、Remote Management Frontend はデフォルト値（Telnet 通信は 3172、SSH 通信は 22）を使用します。

iRMC/ iRMC S2 との通信が確立するとすぐに、ユーザ名とパスワードを入力するように求められます。

– SSH 通信での Remote Manage へのログイン

i 監視対象サーバのホストキーがリモートワークステーションに未登録である場合、SSH クライアントによってセキュリティ警告が表示されます。画面表示に従って操作してください。

次のログイン画面が表示されます。

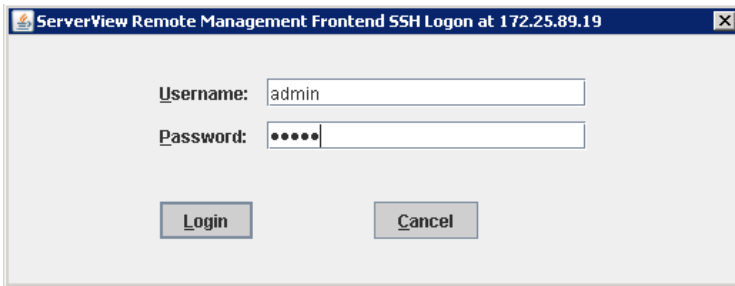



図 16: SSH 通信 : Remote Manager へのログイン

► ユーザ名とパスワードを入力し、「Login」ボタンをクリックして入力を確定します。

Remote Manager のメインメニューが表示されます（50 ページの図 18 をご覧ください）。

– Telnet 通信での Remote Manage へのログイン

Remote Manager のログイン画面が表示されます。

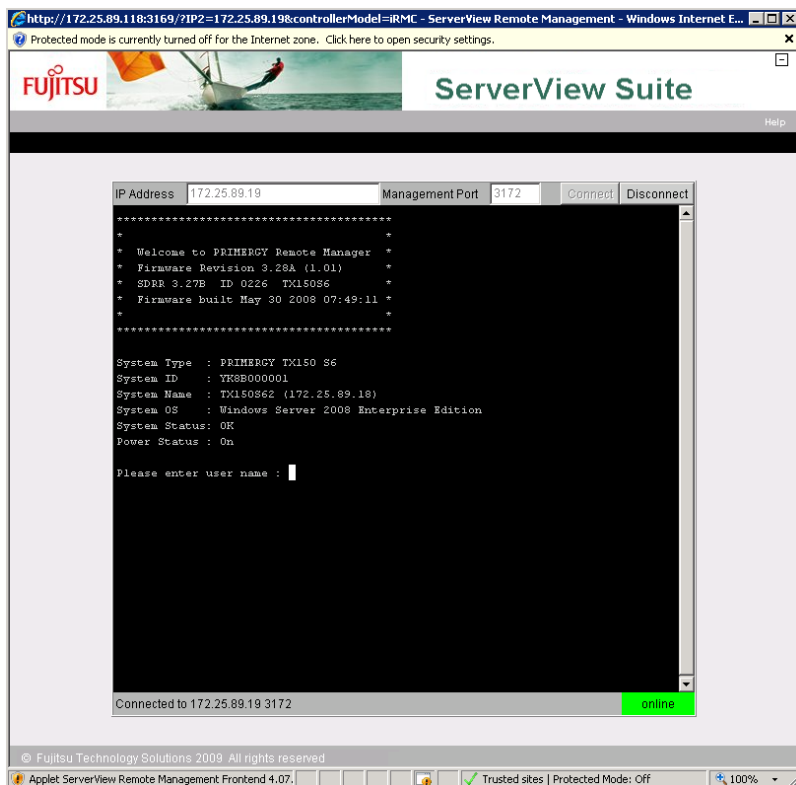



図 17: Telnet 通信 Remote Manager へのログイン

**i** ServerView エージェントがシステム上で開始したタイミングによって、ログイン画面にシステム情報が表示される場合とされない場合があります。

► ユーザ名とパスワードを入力し、[Enter] キーを押して入力を確定します。

Remote Manager のメインメニュー が表示されます（50 ページの図 18 をご覧ください）。

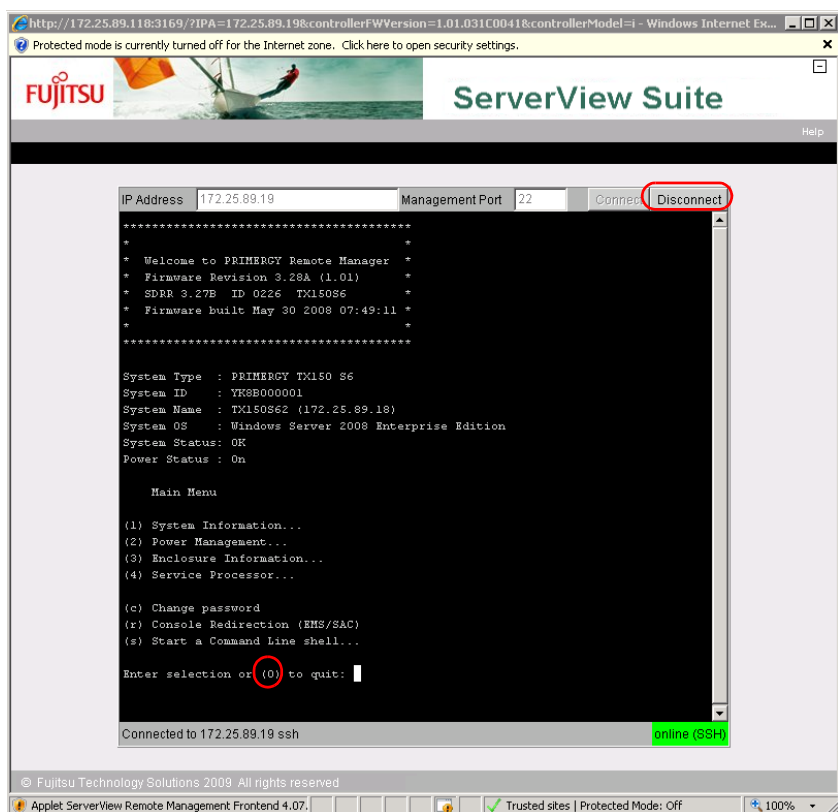



図 18: Remote Manager のメインメニュー

### Telnet/SSH 通信の切断

► Remote Manager との通信を切断するには、「リモートマネージメント」画面の通信バーにある「Disconnect」ボタンをクリックするか、Remote Manager のメインメニューで [0] キーを押します（図 18 をご覧ください）。

接続が切断しても、画面は開いたままです。

## 4.2.2 電源管理とコンソールリダイレクション用の iRMC/ iRMC S2/BMC との通信の確立

i 次の例で、監視対象サーバの電源管理とコンソールリダイレクションを許可する iRMC/ iRMC S2 との通信の確立について説明します。BMC との通信も同様の方法で確立します。

次の手順を実行します。

► Operation Manager のリモートマネージメントビューで、「iRMC 電源制御」ボタンをクリックします。

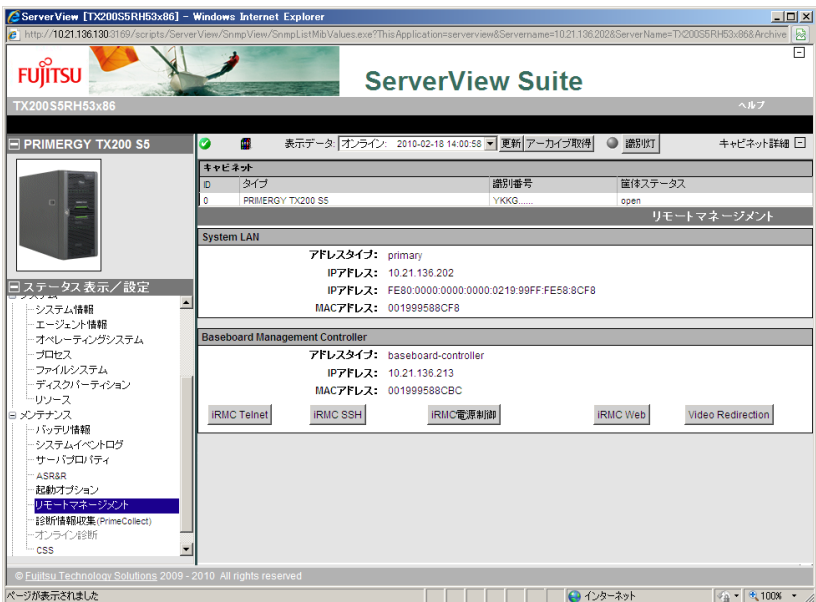



図 19: Operations Manager: リモートマネージメントビュー - 電源管理とコンソールリダイレクションの開始

電源管理とコンソールリダイレクション用の Java アプレットが起動し、「リモートマネージメント」画面が表示されます（47 ページの図 15 をご覧ください）。

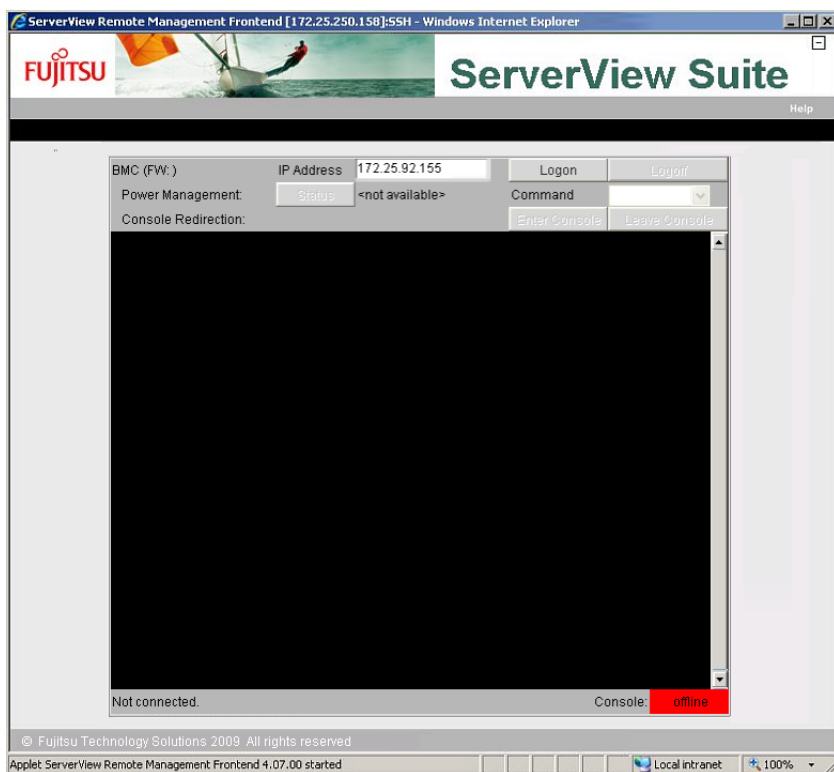



図 20: iRMC/ iRMC S2 へのログイン

► 「Logon」ボタンをクリックすると、iRMC/ iRMC S2 にログインします。

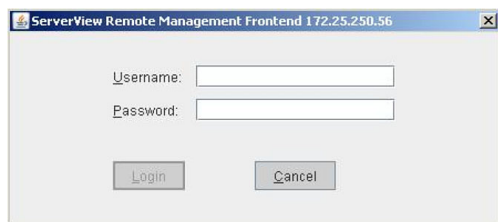
iRMC/ iRMC S2 のユーザ名とパスワードの入力を求められます（52 ページの図 21 をご覧ください）。



図 21: 電源管理とテキストコンソールリダイレクション - ログイン画面

► ユーザ名とパスワードを入力して、「Login」ボタンをクリックして確定します。

「電源管理とテキストコンソールリダイレクション」画面が表示されます。

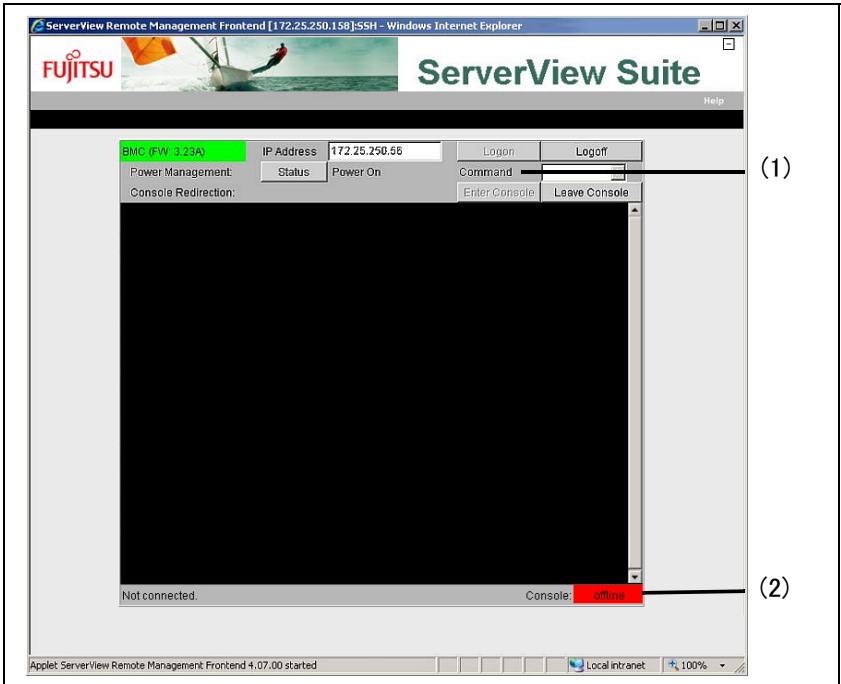



図 22: 「電源管理とテキストコンソールリダイレクション」画面

iRMC/ iRMC S2 との通信が確立し、監視対象サーバの電源管理用のコマンドが有効になります。(1)
しかし、サーバコンソールはまだオフラインです。(2)

► 「Enter Console」ボタンをクリックして、コンソールリダイレクションのセッションを開始します。

ℹ Kalypso BMC 経由で監視対象サーバにアクセスする場合は、コンソールリダイレクションのセッションを開始するために、ユーザ名とパスワードの再入力を(Kalypso BMC の Telnet サーバから)求められます。

コンソールに接続されます。コンソール領域で直接入力するか、「Command」ドロップダウンリストでクリックして(IPMI コマンドのみ)、必要なコマンドを実行できます。

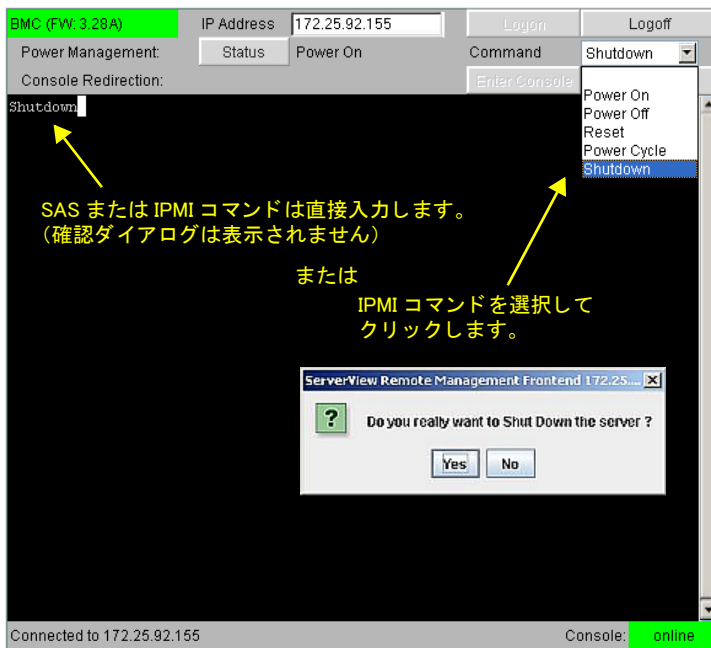



図 23: コンソールでの SAC または IPMI コマンドの入力

- ► コンソールとの通信を切断するには、「Leave Console」ボタンをクリックします。
- ► iRMC/ iRMC S2 との通信を切断するには、「Logoff」ボタンをクリックします。

# 5 セキュリティ

## 5.1 パスワード保護

サーバへの不正なリモートアクセスを防止するために、ServerView Suite にはパスワード保護機能があります。Remote Management Frontend には 2 種類のパスワードが必要です。

– ServerView Web サーバ用のパスワード
– リモートハードウェア用のパスワード

**ServerView Web サーバ用のパスワード**

ServerView Web サーバにログオンするには、Operations Manager のユーザパスワードが必要です（「ServerView Suite ServerView Operations Manager Installation」マニュアルをご覧ください）。

**リモートハードウェア用のパスワード**

使用しているリモートハードウェアに応じて、次のパスワードが必要です。

– **iRMC/ iRMC S2** パスワード

  iRMC/ iRMC S2 ごとに、個別のパスワードと権限がある複数のユーザ認証を定義できます。（「iRMC - integrated Remote Management Controller」マニュアルと「iRMC S2 - integrated Remote Management Controller」マニュアルをご覧ください）。

– **RSB S2/ RSB S2 LP** パスワード

  RSB S2/ RSB S2 LP ごとに、個別のパスワードと権限がある複数のユーザ認証を定義できます。

– **RSB** パスワード

  RSB ごとに、個別のパスワードと権限がある複数のユーザ認証を定義できます。

– **マネジメントブレード**パスワード
  マネジメントブレードごとに、個別のパスワードと権限がある複数のユーザ認証を定義できます。

– **リモート IPMI** パスワード
  **BMC** ごとに、個別のパスワードがある複数のユーザ認証を定義することができます。

## 5.2 コンソールリダイレクション

– Kalypso BMC:

  Remote Management Frontend から送信する Telnet パッケージは、RMCP データパッケージに同梱されています。

  BMC は Telnet データパッケージで応答します。

– iRMC/ iRMC S2, BMC of RX600 S2/S3

  コンソールリダイレクションは暗号化され、Serial Over LAN（SOL）が行われます。

# 関連マニュアル一覧

ServerView Suite DVD 2 内には、次のマニュアルが格納されています。

これらのマニュアルは、*http://manuals.ts.fujitsu.com* からもダウンロードできます。

[1] **ServerView Suite**
**Basic Concepts**

[2] **PRIMERGY Glossary**

[3] **PRIMERGY Abbriviations**

[4] **Secure PRIMERGY Server Management**
**Enterprise Security**
PRIMERGY server management for secure,
highly available platforms
White Paper

[5] **ServerView Suite**
**Installation Manager**
User Guide

[6] **ServerView Suite**
**Deployment Manager**
User Guide

[7] **ServerView Suite**
**ServerView Operations Manager**
Installation under Windows
Installation Guide

[8] **ServerView Suite**
**ServerView Operations Manager**
Installation ServerView Agents for Windows
Installation Guide

[9] **ServerView Suite**
**ServerView Operations Manager**
Installation under Windows
Quick Installation Guide

[10] **ServerView Suite**
**ServerView Operations Manager**
Installation under Linux
Installation Guide

[11] **ServerView Suite**
**ServerView Operations Manager**
Installation ServerView Agents for Linux
Installation Guide

[12] **ServerView Suite**
**ServerView Operations Manager**
Installation under Linux
Quick Installation Guide

[13] **ServerView Suite**
**ServerView Operations Manager**
ServerView Agents (Linux, VMware)
Quick Installation Guide

[14] **ServerView Suite**
**ServerView Operations Manager**
Base Configuration Wizard
User Guide

[15] **ServerView Suite**
**ServerView Operations Manager**
Server Management
User Guide

[16] **ServerView Suite**
**ServerView Inventory Manager**
User Guide

[17] **ServerView Suite**
**ServerView Archive Manager**
User Guide

[18] **ServerView Suite**
**Asset Management**
Command Line Interface
User Guide

[19] **ServerView Suite**
**ServerView RAID Manager**
User Guide

[20] **ServerView Suite**
**ServerView Event Manager**
User Guide

[21] **ServerView Suite**
**ServerView Threshold Manager**
User Guide

[22] **ServerView Suite**
**ServerView Performance Manager**
User Guide

[23] **ServerView Suite**
**ServerView Update Management**
User Guide

[24] **ServerView Suite**
**ServerView Update Manager Express**
User Guide

[25] **ServerView Suite**
**PrimeUp**
User Guide

[26] **ServerView Suite**
**Bootable Update CD**
User Guide

[27] **ServerView Suite**
**ServerView Online Diagnostics**
User Guide

[28] **ServerView Suite**
**Local Service Concept (LSC)**
User Guide

[29] **ServerView Suite**
**PrimeCollect**
User Guide

[30] **ServerView Suite**
**ServerView Virtual-IO Manager**
User Guide

[31] **ServerView Suite**
**ServerView Virtual-IO Manager CLI**
Command Line Interface

[32] **VMwareESXi Support of ServerView**
**ServerView Operations Manager**
Welcome Guide

[33] **ServerView Suite**
**ServerView Integration**
Overview

[34] **ServerView Suite**
**ServerView Integration in MOM**
User Guide

[35] **ServerView Suite**
**ServerView Integration Pack for MS SCOM**
User Guide

[36] **ServerView Suite**
**ServerView Integration Pack for MS SMS**
User Guide

[37] **ServerView Suite**
**DeskView and ServerView Integration Pack for Microsoft SCCM**
User Guide

[38] **ServerView Suite**
**ServerView Integration in HP OpenView NNM**
User Guide

[39] **ServerView Suite**
**ServerView Integration in HP Operations Manager**
User Guide

[40] **ServerView Suite**
**ServerView Integration Pack in Tivoli NetView**
User Guide

[41] **ServerView Suite**
**ServerView Integration Pack in Tivoli TEC**
User Guide

[42] **ServerView Suite**
**ServerView Integration in DeskView**
User Guide

[43] **ServerView Suite**
**ServerView Remote Management Frontend**
User guide

[44] **ServerView Suite**
**iRMC - integrated Remote Management Controller**
User Guide

[45] **ServerView Suite**
**iRMC S2 - integrated Remote Management Controller**
User Guide

[46] **ServerView Suite**
**Provision of ServerView Software on the Internet**
Description

[47] **PRIMERGY BX300 Blade Server Systems**
Operating Manual

[48] **PRIMERGY BX600 Blade Server Systems**
Operating Manual

[49] **PRIMERGY BX600 Blade Server Systems**
**ServerView Management Blade S3**
User Interface Description
User Guide

[50] **PRIMERGY BX900 Blade Server Systems**
Operating Manual

[51] **PRIMERGY BX900 Blade Server Systems**
**ServerView Management Blade S1**
User Interface Description
User Guide

[52] **PRIMERGY Blade Server System**
**LAN Switch Blade**
User Interface Description
User Guide

[53] **BIOS-Setup**
Description

[54] **PRIMEPOWER ServerView Suite**
System Administration within a Domain
User Guide

[55] **FibreCAT CX**
**Monitoring FibreCAT SX systems with ServerView Operations Manager**
Welcome Guide

[56] **FibreCAT SX**
**Monitoring FibreCAT SX systems with ServerView Operations Manager**
Welcome Guide

[57] **ETERNUS DX60/DX80**
**Monitoring ETERNUS DX systems with ServerView Operations Manager**
Welcome Guide

[58] **StorMan**
Provisioning and managing virtualized storage resources
User Guide

[59] **APC network management card**
User’s Guide

[60] **VMware**
**VMware ESX Server**
Installation Guide

[61] **VMware**
**VMware ESX Server**
Administration Guide

# 索引